



創造する生徒 心豊かな生徒 鍛える生徒

藤花だより

令和5年度1月号
令和6年1月9日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<https://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

「打てば響く」

～「学びあい」「高めあい」「支えあい」「響き合い」～

校長 森角 由希子

昨年中は、本校の教育活動に多大なる御協力と御支援を賜り誠にありがとうございました。今年も生徒たちにとって、また、皆様にとって実り多き一年でありますようお願いいたします。

年初から大きな災害が発生しました。令和6年能登半島地震で多くの尊い人命が犠牲となり、深く哀悼の意を表します。また、この一連の地震等で被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地域の安全の確保と一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、生徒たちにとってこの3学期は、これまでの成果や課題を振り返り、いよいよ進級や進学、そして新たな社会への確かな一歩を踏み出すための準備と総まとめを行う時期となります。「自分の努力と可能性を信じて目標に向かって粘り強く挑戦し、人としての幅を広げてほしい」と生徒たちには様々な場面で話をしてきました。自分の殻を破ろうと何かに挑戦をしたとき、時に苦しみを伴うことがあります。しかし、たとえ納得のいく結果が出なくとも、自分自身で心に決め行動に移したことが、次のステップへの原動力につながるものと信じています。

私の年末年始に視聴する番組に「ゆく年くる年」があります。画面から流れてくる梵鐘の音に、「来年もよい年でありますように」と願うのが、年中行事となっています。寺には、この鐘（梵鐘）だけでなく、お仏壇の前にある鈴（りん）の大きなもの（大磬・小磬）、拍子木（柝たく）木魚、太鼓（法鼓 ほっく）等、宗派によって若干の違いはあるようですが、いろいろな『鳴らしもの』があります。僧侶が修行する所では、この『鳴らしもの』が、いつ、どのように鳴らされるかで、次にはどのような行動をしなければならないのかを知らせてくれるのだそうです。朝起きてから食事をする場面の例として、

- ①日出や日没、就寝時には開板（かいはん）と呼ばれる分厚い木の板を木づちで叩き時を知らせる。
- ②朝食や昼食の準備ができると、雲板（うんぱん）と呼ばれる金属製の板を鳴らして合図する。
- ③食事の前に柝（拍子木）を一つ鳴らすと、お経を唱えながら、お椀を（持鉢）並べて、ご飯をよそってもらえるように準備をする。

といったように、修行の場面では、『鳴らしもの』で合図することにより、次にどのような行動をしなければならないか、また、その準備や心構えができているかということ、日々繰り返し修行しているのだそうです。

『打てば響く』という言葉があります。この言葉は、何らかの働きかけに対して瞬時に反応を示すことを意味しています。太鼓を打ったらすぐにド～ンと音を響かせることに例えていることわざです。学校にも、時を知らせる鐘（チャイム）があります。このチャイムにより、授業への心の構えを作りますが、大宮西中生の皆さんには、自分で『心の鐘』を鳴らす自律した集団としての成長を期待しています。そして、時を知らせる鐘への反応だけでなく、自分の中の鐘の音が正しく響き、周りの人たちと心が響き合う一年になることを願っています。

結びに、あらためて保護者・地域の皆様には、謹んで新年のお慶びを申し上げます。教職員一同、力を合わせ、精一杯教育活動に精進してまいりたいと決意しております。今年も、大宮西中生の健やかな成長を願ってお力添えいただきますようお願い申し上げます。

